

「『誰か』のことじゃない。」

学校長 日暮 勤



2022(令和4)年も残り1か月となりました。朝の子どもたちは、暖かそうな上着や、帽子、手袋やマフラーを身につけるようになり、寒さに負けない「おはようございます!」の声をくれます。

さて、法務省の人権擁護機関では、毎年12月4日から12月10日(世界人権宣言が採択された「人権デー」)までの1週間を人権週間と定め、様々な啓発活動をしています。

今年度、法務省の人権啓発活動重点目標・キャッチコピーは「『誰か』のことじゃない。」です。日頃、他人事としてとらえてしまいがちな私は、この機会を活かして学ぼうと、法務省の人権週間のホームページを検索してみました。そのページには「『誰か』のことじゃない。」をテーマにした九つのショートストーリーが公開されていました。

セクシュアルハラスメント、ドメスティックバイオレンス、いじめ、児童虐待、障害のある人、部落差別(同和問題)、外国人、感染症、インターネットをテーマにしたストーリーの中で、主人公が人権問題を「『誰か』のことじゃない。」と気づいていく話でした。

私は今まで、様々な人権問題の中で負けずに生きてきた当事者との出会いや、差別をなくすために活動する方々とのつながりを通して、人権について自分なりに学んできたつもりでした。しかし、自分は、日常にあるこれらのストーリーのような場面で、「自分のこととして感じ、動くことができるのか、できるのか。」と考えると、まだまだ自信もなく、ひよっとすると差別する側になっているかもしれないという自分に気づくことができたのです。

そんな時、最近あった6年生児童Aさんに関わる2つのエピソードを思い出しました。

1つ目は「『やさしいなあ』をみつけたよカード」にあったAさんの友達からの投稿です。

私がかぎを落とした時に、Aさんが鉄のふた(格子状のもの)をもち上げて、とってくれました。やさしいし、かっこいいなあと思いました。

投稿してくれた友達は、「もう取れないかも…」という不安の中、さっと動いて取ってくれたAさんに感謝と憧れを感じ、共感を求めて私に伝えたのでしょう。私はこの投稿に

朝、私もそのシーンを見ました。Aさんの動きは素早く、困っている姿をみて、「たすけよう」と動く様子は「やさしいなあ」「かっこいいなあ」と私も思いました。あのふたを持ち上げようとした私よりも早く、友のために動く姿に感動しました。いい友達がいて幸せですね。

と返しました。Aさんの動きから伝わる「自分のこととして考え、行動する姿」と、「自分の思いを伝えようとした投稿者の姿」に、「誰か」のこととしないで関わり合って生きる、この子どもたちの温かいつながりを見つけたのです。

2つ目は、給食室から教室に食缶を運ぶ際に、こぼれてしまったものをふき取るためのペーパー担当だったAさんの行動です。Aさんは、床にこぼれた汁を見つけると、自分のクラスがこぼしたわけではないのに、躊躇なく駆けつけて拭きはじめたのです。そこを通る子どもたちに「踏まないように気を付けて。」と声をかけながら拭き続けるAさんの周りには、気づくと他のクラスのペーパー担当の児童が何人も集まり、Aさんと一緒に拭いていました。私はAさんに「君は本当にすごい!ありがとう!」と拙いですが、ふいに出た思いを言葉で伝えました。

人権週間を前に、「『誰かの』ことじゃない」意識で、具体的行動を通して温かく人とつながるAさんのことを思い出し、私も「Aさんみたいに生きていきたい」と思いました。純粹に人とつながって生きる子どもからの私の学びです。

12月のふれあいフェスティバルで、6年生は、人権について自分たちが学び、考えていたことを劇で表現してくれます。どんな形でどんなメッセージになるのかがとても楽しみです。